

地域振興のための方策におけるツーリズムの特性

——地域的視点に基づく論点——

Characteristics of Tourism in Policy for Regional Development : Issues From a Regional Perspective

森 信 之*

MORI Nobuyuki

This paper considers characteristics of tourism in policy for regional development with a focus on issues from a regional perspective. On the basis of previous studies, it shows two important characteristics of tourism focusing on the functions of tourism which have effects on regional development. The first is related to the comprehensive and multiple functions of tourism, and their integrated effects. The second is related to the different specific functions of tourism, and various effects which the individual functions and their interrelationships have. This paper considers two important issues related to the relationships between the characteristics of tourism and the policy for regional development from a regional perspective, which concern the comprehensiveness and the multiplicity of those relationships, and regional development focusing on the different characteristics of tourism, with an emphasis on the tourism promotion and the implementation of the policy.

キーワード：地域振興 (regional development), ツーリズム (tourism), 方策 (policy), 地域的視点 (regional perspective)

1. はじめに

地域振興のための方策において効果をもたらすツーリズムについては、推進すべきツーリズムが多様な特性、それらに基づく異なった有効性をもつことに着目する必要がある。この点は、地域振興において焦点となる地域特性、それと密接に関わるツーリズムの対象としての地域資源と直結し、地域振興を促す効果を生み出し、高めるためにもつべき機能を中心とするツーリズムの特性を重視することによって、ツーリズムの推進主体、推進体制、推進方法といった点でとらえられるツーリズム推進の異なったあり方を焦点とした地域振興のためのより有効な方策の構築、具体化につなげることが可能になると

考えられる。

また、そこで重視すべきツーリズムの特性については、地域振興のための方策において推進される多様なツーリズムがもつ異なった機能のあり方に着目することが必要となる。そのため、地域振興の対象となる地域内において、あるいは、地域外との関わりの中かでツーリズムがもつ効果的な機能、それらの相互関係に関して軸となる側面を見出し、それを地域振興において構築、具体化すべき機能のあり方の基本として明確にするとともに、そこから地域特性に適合した、地域振興にとってより有効な重視すべきツーリズムの特性の具体化、さらには、それらと地域振興のための方策との関係に関わる論点に結びつけることが重要になるといえる。

以上の点、また、ツーリズムを中心とする地域振興に

*大阪観光大学観光学部

関わる地域的關係（森 2012）、地域振興のための政策推進において重視すべき方策とツーリズムとの関係に関わる論点（森 2013）、地域振興におけるツーリズム推進のための方策に関係づけた地域経済に関わる論点（森 2015）をふまえ、本稿では、ツーリズムの特性、地域振興のための方策各々、両者間の関係が多様な地域、地域資源との関わりをもつことを焦点とする地域的視点に基づき、まず、ツーリズムがもつ機能に関して軸となる側面と結びついた重視すべきツーリズムの特性を提示し、各々について考察する。次いで、そうしたツーリズムの特性と地域振興のための方策との間において軸となる関係とその地域的展開に関して重視すべき論点を提示し、各々について考察する。

2. 重視すべきツーリズムの特性

ツーリズムがもつ機能に関して軸となる側面については、推進されるツーリズム自体を構成する諸側面、諸要素と一体化させてとらえる必要がある。そのためには、地域振興を促す効果を生み出し、高めるための有効な機能のあり方として包括的に構築、具体化を図ることが重要となるが、そこでは、特に、地域特性と密接に関わるツーリズムの対象としての地域資源、また、多様な個々の機能、機能群、それらの相互関係、機能構成を包括的に結びつけつつとらえることが不可欠になるといえる。こうした点をふまえ、ツーリズム推進において基本になるとともに、地域振興を促す効果に関して軸として機能することを焦点とすることによって、次の2つの重視すべきツーリズムの特性が提示される¹⁾。

第1は、中核的な地域資源を基盤とし、それと直結する機能を中心とする多様な機能の異なった包括性、複合性をもつとともに、ツーリズム推進においては、統合的、一体的な効果をもたらすことを軸とする特性、第2は、異なった特定の機能を中心とする独自性をもつとともに、ツーリズム推進においては、異なった地域資源との関わりに基づく個々の機能、中心となる機能間の相互関係による多様な効果をもたらすことを軸とする特性である。

第1の特性では、異なった包括性、複合性とそれらもたらす効果との関係について、まず、推進されるツーリズムにおいて、中核的な地域資源の価値、魅力を基盤とする諸機能が総体として特定の特性をもつことに関しては、ツーリズムが総体としてもたらす統合的、一体的な効果が重要となる。ここでは、ツーリズムがもつ機

能が、中核的な地域資源を基盤とすることによる固有性をもつ一方、特定の地域資源を基盤とすることによって限定的な特性をもつ点に着目する必要がある。これについては、そうした固有性に基づく包括性、複合性をもつことによって、総体としてもたらす効果をより高めることが重視される。特に、統合的、一体的な効果をもたらすことに関しては、個々の機能ごとの中核的な地域資源との関わり、そうした地域資源を基盤とすることによって効果的となる機能群、ツーリズム推進において軸となる機能間の相互関係、特定の地域資源を基盤としつつも機能ごとの地域資源との多様な関わりを活かした機能構成を具体化し、ツーリズム推進に結びつけることが不可欠となる。

次いで、中核的な地域資源の価値、魅力を基盤とする諸機能をもつ中心となるツーリズム推進とそれを補完するツーリズム推進との相互関係が形成されることに関しては、各々は総体として特定の特性をもつことになるが、効果では、各々がもたらす個々の効果とともに、両者間の相互関係がもたらす効果を含めた統合的、一体的な効果のあり方が重視される。両者各々のツーリズム推進における機能については、先の総体として特定の特性をもつ場合と同様の点が指摘されるが、両者間の相互関係においては、両者各々がもつ機能間の関係を視野に入れる必要がある。中心となるツーリズム推進では、統合的、一体的な効果をもたらすための軸となる機能をもつことになるが、そこでは、それを補完するツーリズム推進において核となる機能との間で相乗効果を生み出し、高めることが焦点となる。特に、そうした機能と中核的な地域資源との関わりは、異なった条件における包括性、複合性をもったツーリズム推進のあり方を見出すことを必要とし、したがって、ツーリズムがもつ機能に関しては、ツーリズム推進の展開のプロセスを明確にすることと一体化させた具体化が重要になるといえる。

さらに、中核的な地域資源の価値、魅力を基盤とする諸機能が総体として特性をもつツーリズム推進が、異なった条件において個々に展開することに関しては、包括性、複合性の多様化とともに、各々における異なった機能のあり方に基づく特性の多様化を視野に入れることが重要となる。ここでは、核となる機能を軸とするツーリズム推進の展開のプロセスが進展し、条件の多様化とともにより錯綜することになると考えられるため、推進されるツーリズムがもつ機能間の相互関係をそうしたプロセスの進展に関係づけながら明確にすることが不可欠となる。また、統合的、一体的な効果をもたらすうえで軸

となる相互関係を見出すことが重要となるが、各々のツーリズム推進に関わる機能に関しては、中核的な地域資源との関わりに基づく異なった内容、重要性をもつことが重視されることとなり、したがって、軸となる相互関係がそれらによって多様化することをふまえた機能、ツーリズム推進の具体化を図ることが必要となる。

第2の特性では、異なった特定の機能を中心とする独自性とそれらもたらす効果との関係について、まず、ツーリズム推進において、複数の中心となる特定の機能が複合化することによる特性をもつことに関しては、各々のツーリズムにおいて中心となる機能間の相互関係がもたらす複合的な効果が重要となる。異なった特定の機能については、各々の独自性を活かしつつ融合化を図ることによって、新たな複合的な効果を生み出し、高めることにつながる一方、各々の独自性が一層強まり、個々の特定の機能もたらす効果を相乗的に高めることを重視する必要がある。そのため、ツーリズム推進においては、そうした個々の機能、それらの相互関係の具体化が不可欠となるが、特に、個々の機能を構成するより詳細な個別の機能、それらによる効果的な機能群、中心となる異なった特定の機能間におけるそれらの相互関係に関して、効果と直結させた具体化を焦点とすることによって、中心となる異なった機能を軸とするツーリズム推進、さらには、新たな機能特性をもったツーリズム推進を想定することが可能になると考えられる。

次いで、中心となる異なった特定の機能間で形成される相互関係に関しては、まず、中核的な機能とそれを補完する機能が軸となることについて、地域資源、また、ツーリズム推進に関わる生活や経済、環境などの領域の特性を基に、ツーリズム推進を先導する中核的な機能とともに、補完的なツーリズム推進において中心となるそれとは異なった機能を明確にし、両者が一体化し、総体としての効果を高めるためのツーリズム推進の具体化が必要となる。その際には、地域資源との関わりにおける両者の整合性と各々の独自性、推進されるツーリズムにおいて基本となる領域、異なった領域間の関係の特性に基づき、両者間の相互関係においてツーリズム推進の有効性をより高めるうえで焦点となる側面を見出すことが重要になるといえる。また、中心となる異なった特定の機能が各々の固有性に基づく相互関係を形成することについては、多様な機能各々、それらの相互関係が一体的な効果を生み出し、高めることが不可欠となるため、個々の機能の効果とともに、それらの相互関係がもたらす効果を中心とするツーリズム推進が重視されることに

なる。ここでは、個々の機能だけではなく、異なった機能間の相互関係のあり方と効果との関係が重要となるが、特に、そうした相互関係が個々の機能をより効果的にする点に着目することによって、錯綜した機能間の相互関係において、ツーリズム推進の有効性をより高めるうえで焦点となる側面が、個々の機能の地域資源との関わりやツーリズム推進に関わる領域の特性によって特定化された内容、また、個々の機能の特性に応じた多様なそれらの組合せ、複合、融合、一体化を伴うより広範な内容を含むことになると考えられる。

さらに、複数の中心となる特定の機能が、異なった条件において個々にツーリズム推進を促す展開に関しては、各々特定の機能を中心とするツーリズム推進ではあるが、特定の機能を中心とするより包括的な機能特性をもつことによって、各々が統合的な性格をもったツーリズム推進とすること、また、それらに基づく包括的、統合的な効果に着目することが重要となる。ここでは、推進されるツーリズムごとの機能のあり方がまず焦点となり、中心となる機能とともに、多様な地域資源との関わり、ツーリズム推進に関わる領域の多様化、複合化に結びついた機能を明確にし、それらに基づき各々のツーリズムの独自性を強化、創出する一方、個別の包括的なツーリズム推進の展開が可能となるための条件を具体化することが必要となる。また、ツーリズム推進では、中心となる機能を基本とすることになるが、機能の多様性、包括性を高めることに伴って、各々のツーリズム推進の展開のプロセスが錯綜すると考えられるため、新たな機能の創出を含めた機能自体のあり方とともに、それと直結したツーリズム、それがもたらす効果をふまえた包括的なツーリズム推進のあり方の具体化を図ることが必要になるといえる。

3. 地域振興のための方策との関係とその地域的展開

重視すべきツーリズムの特性と地域振興のための方策との関係については、ツーリズム推進と地域振興のための方策の推進との間において、地域振興において有効に作用する軸となる関係を見出すことが焦点となる。そのためには、重視すべきツーリズムの特性、地域振興のための方策からとらえられるそうした軸となる関係の基本となる側面をまず明確にすることが必要であり、そこから本稿における地域的視点に基づく重視すべき論点に結びつけることが不可欠となる。また、その際には、特に、重視すべきツーリズムの特性、地域振興のための方策

表-1 「三重県観光振興基本計画」における「三重県観光の持続的な発展に向けた施策の展開」

<p>1. 式年遷宮の好機を生かした国内誘客</p> <p>①式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化 ②周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり</p> <p>③体験型観光を通じた教育旅行の誘致</p> <p>2. 三重県の特性を生かした海外誘客</p> <p>①海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開 ②国及び他府県との広域連携の推進 ③外国人観光旅行者の受入体制の整備充実</p> <p>3. 観光産業の高付加価値化</p> <p>①観光産業の育成・振興 ②観光産業の複合化による新たなツーリズムへの対応 ③観光産業の高度化につながる県産品の魅力づくり</p> <p>4. おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり</p> <p>①観光地づくりを担う人材の育成（「おもてなし」の向上） ②県民の観光行動の促進 ③地域の持続的な観光地づくりへの支援</p> <p>5. 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり</p> <p>①観光地の景観形成・快適な交流空間づくり ②人にやさしい観光地づくり ③観光旅行の安全・安心の確保 ④観光振興に資する交通基盤等の構築</p>
--

出典：三重県農水商工部観光局観光・交流室（2012：28-45）により作成。

各々が地域振興の対象となる地域を中心とする多様な地域、両者の基盤となる地域資源との関わりをもっていることから、軸となる関係に関してもその地域的展開と関係づけることが重要になるといえる。

こうした点に関して、三重県における観光振興のための施策では、森（2013）で取り上げた三重県農水商工部観光局観光・交流室（2012）が「三重県観光の持続的な発展に向けた施策の展開」について示している（表-1）。本計画では、「観光振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進していく」（三重県農水商工部観光局観光・交流室 2012：1）としているが、地域別の施策については、「おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり」の「地域の持続的な観光地づくりへの支援」における「地域別観光振興の方向」で示しており、森（2004, 2005, 2006, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012,

2014, 2015）で取り上げている三重県東紀州地域についても北勢地域、中南勢地域、伊勢志摩地域、伊賀地域とともにそこで示している。

また、三重県において2009年度から2014年度まで行われてきた「美し国おこし・三重」について「美し国おこし・三重」実行委員会（2015 a）が出されている（表-2）。本表における「パートナーグループ」は、「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、自発的に地域をよりよくしていこうとする活動を行うグループとされており、三重県全体で累計743の登録数のうち、東紀州地域は112となっている（「美し国おこし・三重」実行委員会 2015 a：25-26²⁾）。また、「活動分野」には、「祭り・イベント」、「総合的なまちづくり」などとともに、「観光振興」が含まれている（「美し国おこし・三重」実行委員会 2015 a：26³⁾）。

表-2 「美し国おこし・三重」

<p>「美し国おこし・三重」の初年度となる平成21年度には、「オープニング」を実施するとともに、取組の基本となる「地域での美し国おこし」をスタート、県内各地域における座談会の開催やパートナーグループの登録およびサポートを進めた。</p> <p>この6年間の取組の中で、地域の課題やビジョンを話し合う座談会を3,840回開催するとともに、県民の皆さんの幅広い参加を得て実施する拡大座談会等を140ヶ所で開催してきた。また、地域づくり活動を行う743グループ・団体の皆さんがパートナーグループに登録し、これらのグループに対しては専門家派遣、広報支援、ネットワーク化支援、財政的支援など、グループの活動の進捗状況や課題に応じたきめ細かな支援を行った。</p> <p>平成22年度～24年度は、県内各地のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し全県的・広域的な取組を推進する「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」において、「人と自然の絆づくり」、「人と地域の絆づくり」および「人と人の絆づくり」の3つの理念に基づくテーマを設定し、県内各地でプロジェクトを実施した。</p> <p>そして、平成25年度には「県民力拡大プロジェクトイベント」を実施するとともに、取組の最終年となる平成26年度には、6年間の取組の成果を県内外にアピールし、地域をよりよくしていこうとする三重の県民力を新たな時代に向かって拡大する「県民力拡大プロジェクト」を実施した。</p>

注) 「美し国おこし・三重」の6年間のあゆみ」の一部について記載している。

出典：「美し国おこし・三重」実行委員会（2015 a：4）により作成。

これらについては、地域振興のための方策の推進において、地域特性を活かした総合的な観光振興のための取組みと直結した特性をもつツーリズム、あるいは、多様な領域に関わる地域振興、地域づくりのための活動、行動、それを担う主体との関わりをもち、それら各々に基づく多様な特性をもつツーリズムといった異なった特性に基づくツーリズム推進の重要性につながることを期待され、したがって、ツーリズム推進と地域振興のための方策の推進との間において、具体的な取組みや主体の活動、行動、それらの地域的展開に関して軸となる関係の具体化に関わることになると考えられる。

こうした点、また、周辺地域 (peripheral areas) におけるローカルなツーリズム・システム、それと地域的なツーリズム・イノベーション・システムとの関係 (Carson, D. A. et al. 2014)、デスティネーションの発展におけるツーリズムに関わる政策ネットワーク、イノベーションを指向するデスティネーションの発展政策におけるガバナンスがもつ問題 (Halkier 2014) などのツーリズムの特性、機能、推進、それらに関わる政策、問題についての論点との関わり⁴⁾をふまえることによって、包括性、複合性、また、ツーリズムの特性を焦点とした地域振興各々に関わる 2 つの重視すべき論点が提示される。

(1) 包括性、複合性に関わる論点

この論点では、ツーリズム推進と地域振興のための方策の推進との間において、包括性、複合性を基盤とした両者の地域的展開を促すことを軸とする関係が焦点となる。これについては、まず、ツーリズム推進と地域振興のための方策の推進において、対象となる地域が整合し、両者が総体として一体化することに関して、ツーリズム推進において対象となる中核的な地域資源を基盤とするツーリズムの特性と、地域振興のための方策としての取組みから構築される地域振興を促す仕組みとの関係を重視する必要がある。ツーリズムについては、推進主体、推進体制、推進方法といった点に着目した特性の総体としてのあり方を具体化することが不可欠となるが、地域振興においては、それを基本とする取組みを明確にし、そこから見出される有効な個々の取組み、それらの有効な組合せ、連携を方策の柱とすること、また、ツーリズムに関わる取組みとは異なった柱となる取組み、それらの組合せ、連携を視野に入れることによって、地域振興を促す包括的、複合的な効果をもたらすための仕組みを構築、具体化することが必要になるといえる。

ツーリズム推進、地域振興のための方策の推進各々において対象となる地域が整合する地域的展開については、両者各々に関わる主体の活動、行動、あるいは、機能、取組みの地域的展開が連携、一体化することが不可欠となる。そのため、ここでの関係において包括性、複合性を基盤とすることは、ツーリズムの特性をふまえつつ、ツーリズムを含む地域振興における地域特性に基づくそうした基盤からもたらされる関わりが軸となる関係を形成することが重要になると考えられる。したがって、地域振興のための方策総体としての推進の地域的展開が、ツーリズム推進における地域特性と整合することが不可欠となり、両者の直接の対象となる地域だけではなく、両者が地域内外においてもつ関わりを視野に入れた地域的展開をより効果的にすることが、地域振興のための方策において焦点となる仕組みの構築に関して重視されることになる。

次いで、ツーリズム推進と地域振興のための方策の推進との間において、中心となる地域とそれを補完する地域との関係が対象となる地域の基本となり、両者がそれに基づいて相互関係を形成することに関しては、ツーリズム推進、地域振興のための方策の推進各々において、中心となる個々の取組み、それらの有効な組合せ、連携、補完的なそれらとの関係から、地域振興を促す包括的、複合的な効果をもたらすことが焦点となる。ここでは、特に、そうした関係がより有効に機能するための両者における取組みから構築される仕組みの具体化が重要となるが、その際には、ツーリズムがもつ包括的、複合的な機能に基づく特性とともに、地域振興を促す包括的、複合的な取組みにおいてそれと一体化したツーリズムを含む地域振興のための方策のあり方を具体化することが不可欠になると考えられる。そのため、それらを結びつけることによってより有効となるツーリズム推進のための取組み、それを担う主体などに関する特性とともに、ツーリズムを中心にそれらを組み込んだ地域振興のための方策としての取組みの具体的内容を明確にすることが重要となる。

中心となる地域とそれを補完する地域との関係に基づく地域的展開については、ツーリズムの特性を焦点としつつ、ツーリズムを含む地域振興における地域特性に基づく包括性、複合性を基盤とするとともに、そうした関係がより効果的な軸として機能するための方策が重要となる。したがって、ツーリズム、地域振興のための方策各々の推進に関わる取組みについては、各々における有効なあり方と結びついた地域的展開を可能とすることが

必要となり、そのためには、ここでの関係に基づき、各々における取組み、それらの間の相互関係が有効性をもたらす取組みの地域的展開において形成される地域的關係と一体化させることによって効果をもたらす仕組みの構築、具体化に結びつけることが不可欠になると考えられる。

さらに、ツーリズムと地域振興のための方策が、個々に異なった地域を対象として推進され、両者がそうした地域ごとに一体化することに関しては、個々の地域がもつ異なった条件に応じた両者間における有効な関係が重視され、それが地域振興を促す包括的、複合的な効果をもたらすことが焦点となる。ここでの有効な関係については、両者が推進される個々の地域ごとに異なった条件、それらに基づく多様化を視野に入れることが必要となる。そのため、各々の地域におけるそうした関係では、ツーリズムと地域振興のための方策が各々総体として関わる領域の特性、それらに基づく包括的、複合的な効果をもたらすための異なった条件における取組み、それらの有効な組合せ、連携を中心とする地域ごとに異なった仕組みの構築が不可欠になるといえる。特に、そうした条件は、ツーリズム推進、地域振興のための方策の推進において柱となる取組みにおける領域の特性との関係、それに基づくツーリズムと地域振興各々の指向性、両者の推進のための方策のあり方自体の差異をもたらすため、各々に適合した有効な関係に基づく仕組みを地域ごとに明確にすることが重要となる。

個々の地域がもつ異なった条件に応じた地域的展開については、包括性、複合性を特性の基盤とする一方、地域ごとに異なったツーリズム推進と地域振興のための方策の推進を視野に入れることによって、軸となる関係の内容をより多様化させてとらえることが必要となる。そのため、そうした多様化が、地域振興の対象となる地域を中心とする地域的關係を錯綜させることをふまえ、個々の地域ごとのツーリズムと地域振興のための方策を中心とする地域的關係を基に、両者の推進の進展によって形成される新たな軸となる関係を焦点とした取組みを可能とする仕組みの構築、具体化を図ることが重要になると考えられる。

(2) ツーリズムの特性を焦点とした地域振興に関わる論点

この論点では、特定の機能に基づく指向性をもったツーリズムが地域振興のための方策において中心となり、ツーリズムの特性を焦点とする地域振興の多様な地域的

展開を促すことを軸とする関係が焦点となる。これについては、まず、ツーリズムがもつ複数の中心となる特定の機能が複合化し、それに基づくツーリズム推進と地域振興のための方策の推進各々において対象となる地域が整合することに関して、ツーリズムにおいて中心となる複合化した機能、地域振興のための方策において柱となる機能各々に基づく取組みが、対象となる地域において一体化し、地域総体としてとらえられる地域振興を促す効果を包括的、複合的にもたらすことが焦点となる。ここでは、両者における取組みの一体化に関して、ツーリズムにおける複合化した特定の機能に基づく指向性をもった取組みが重要となるが、それらが中心となってツーリズム推進による効果をもたらし、相乗的に効果を高めるとともに、地域振興のための方策においては、異なった領域に関わる取組みと一体化し、地域振興を促す核となる効果をもたらすことが必要となる。ツーリズム推進を焦点とする効果は、多様な領域に関わる効果に結びつけることが不可欠となるが、それを可能にする仕組みの構築においては、ツーリズム推進を軸とする方策における取組みとともに、地域振興のための方策における多様な領域に関わる取組みのなかで、地域特性に適合し、ツーリズムの対象となる中核的な地域資源に基づくことによってより効果的な軸となる取組みの具体化が重視されることになる。

ツーリズム推進、地域振興のための方策の推進各々において対象となる地域が整合する地域的展開については、ツーリズムの複合化した特定の機能がもつ多様な地域との関わりを視野に入れ、グローバルな関わりを含めた広域性、あるいは、対象となる地域内においてとらえられる異なった地域特性に基づくことによって、両者間で一体化した取組みを地域的に柔軟に推進することによる効果が焦点となる。特に、ここでの一体化は、ツーリズム、地域振興のための方策各々の推進に関して、地域的視点に基づく拠点性、あるいは、包括性、複合性のあり方、それらの形成のための方策の具体化を必要とすることになる。そのため、より効果的な取組みとするためのツーリズムを中心とする機能に関する条件、地域振興において有効な取組みとするために必要な条件をそこに結びつけることによって、地域振興を促すために構築すべき軸となる関係のあり方を地域的に明確にすることが重要になると考えられる。

次いで、中心となる異なった特定の機能間で形成される相互関係において、中核的な機能と補完的な機能との関係が対象となる地域間との関係と整合することに関して

は、ツーリズムにおいて中心となる特定の機能が、地域振興のための方策においてそうした機能に基づく柱となる取組みと直結するとともに、それらとツーリズム、そうした方策における補完的な特定の機能との相互関係が各地域において相乗的な効果をもたらすことが重要となる。中核的な特定の機能に基づくツーリズム推進と地域振興を包括的、複合的に推進するための方策との間においては、効果的な連関関係を形成することが必要であるが、そこでは、ツーリズム推進を先導的に促す機能に関わる取組み、それらと連動し、そうした機能、取組みに基づく地域振興のための方策が、各々の効果を相乗的に高めるとともに、地域振興を促す効果としてそうした効果をより広範化させるための取組み、それらに基づく仕組みを構築することが重視される。また、ツーリズム推進における補完的な機能については、地域振興のための方策との効果的な連関関係の形成に加えて、ツーリズムにおける中核的な機能との相互関係から見出される地域振興のための取組みを焦点とする方策の具体化が必要となる。

中心となる地域とそれを補完する地域との関係に基づく地域的展開については、ツーリズムにおける中核的な特定の機能に関わる地域、多様な補完的な機能に関わる地域が形成する地域的關係において、地域振興を促すための軸を形成することを焦点とする方策が重視される。特に、中核的な機能は、異なった指向性に基づく特性をもつことになり、それらと補完的な機能との相互關係のなかで、地域振興の推進のための取組みにおける多様な先導性、それらを担う機能のあり方を具体化することが不可欠となる。したがって、中核的、補完的な異なった機能の特性に応じた多様な地域的關係を形成するツーリズム推進と、各々の地域においてそれらに適合し、地域振興のための異なった機能、取組みのあり方に基づく地域的關係を形成する方策の推進において、軸となる地域的關係に関わる取組みを中心とする方策を明確にし、ツーリズムの異なった指向性に応じた地域振興の広範な展開を可能にするための仕組みの構築、具体化に結びつけることが重要になると考えられる。

さらに、特定の機能に基づく異なった指向性をもつツーリズム、地域振興のための方策が一体化し、両者の推進が対象となる異なった個々の地域ごとに整合することに関しては、ツーリズム推進におけるそうした個々の地域、地域資源がもつ特性に適合した機能、取組み、それらを担う主体と、地域振興のための方策における柱となる取組み、それを中心とする取組みの構成、それらを担

う主体とが一体化することになるため、両者の推進においては、地域ごとに異なった指向性をもたらされることになり、それらに基づく地域振興を促す効果の多様なあり方を見出すことが重要となる。ここでのツーリズムにおける異なった特定の機能は、地域振興のあり方自体を規定する基盤に直結することによって、地域振興において重視される領域の特性や構造、それらに基づく方策、取組みの多様化を促すこととなり、したがって、両者が推進される地域については、それを視野に入れた個々の地域ごとの、あるいは、多様な地域的關係のなかでの対象地域としての妥当性、有効性を明確にする必要がある。その際には、特に、そうした機能に基づく地域的關係がより多様化することに関しては、既存の關係だけではなく、地域振興を促し、望ましい効果をもたらすうえで軸となる新たな關係を形成するための取組みを含めた方策の具体化が重視されることになる。

ツーリズムにおける異なった特定の機能を中心とし、地域がもつ異なった条件に応じたツーリズム推進、地域振興のための方策の推進が促す地域的展開については、各々の地域において両者が一体化するうえで核となる機能、取組みの推進を中心に、地域ごとに各々異なった地域的關係を形成し、推進の展開に伴って、それらがより多様化、錯綜することが焦点となる。そうした推進の展開は、地域ごとに異なったプロセス、局面、効果を生み出すこととなり、それらに応じた地域的關係を具体化することが不可欠になるといえる。その際には、特に、対象となる地域間の關係に加えて、各々に適合した地域的關係のあり方が重視されることになる。そのため、対象となる個々の地域内、あるいは、地域外において関わる地域特性、また、グローバルな関わりを含めた個々の地域ごとにもつべき広域性に適合した機能、取組み、それらと結びついた新たな対象となる地域を具体化し、そこで軸となるより有効な地域的關係の形成を可能とする方策の広範化を図ることが必要になると考えられる。

4. おわりに

本稿においては、ツーリズムの特性、地域振興のための方策各々、両者間の關係が多様な地域、地域資源との関わりをもつことを焦点とする地域的視点に基づき、まず、ツーリズム推進において基本になるとともに、地域振興を促す効果に関して軸として機能することを焦点とすることによって、ツーリズムがもつ機能に関して軸となる側面と結びついた2つの重視すべきツーリズムの

特性を提示し、各々について考察した。

次いで、そうしたツーリズムの特性と地域振興のための方策との関係、その地域的展開に関して、ツーリズム推進と地域振興のための方策の推進との間において軸となる関係を見出すことを焦点とし、包括性、複合性、また、ツーリズムの特性を焦点とした地域振興各々に関わる2つの重視すべき論点を提示し、各々について考察した。

今後は、地域特性に基づく多様なツーリズムの特性、それを焦点とするツーリズム推進と地域振興のための方策の推進との関係がもつ地域との関わりを多様化させるとともに、そこにおいて軸となる側面を明確にし、地域振興を促す効果をより高めるための方策の具体化につなげるのが課題となる。

【注】

- 1) 地域振興におけるツーリズム推進のための方策については、森(2015)が地域経済に関わる論点に関して示した方策、効果の基盤となる側面、仕組みの重要性、効果のあり方に基づく方策の異なった指向性、それらとの関係を視野に入れたツーリズム推進のための方策とその効果に関して重視すべき側面をふまえる必要がある。
- 2) 東紀州地域の登録数は、「地域事務所」の「尾鷲」と「熊野」との合計である。
- 3) これら以外の「活動分野」では、「教育」、「食」、「文化」、「産業振興」、「環境保全」、「福祉」などがある(1グループに複数ある場合がある)。「観光振興」の登録数は、三重県全体で284(38.2%)であるが、東紀州地域について「美し国おこし・三重」実行委員会(2015a)の「付属資料」により集計すると56(50%)となる(割合はグループの登録数を分母にして算出)。なお、各々のグループについては、同「付属資料」、「美し国おこし・三重」実行委員会(2015b)に記載されている。
- 4) これらについては、Spyriadis et al. (2013)が示すDMOs (destination management organisations)の構造や機能、Zahra (2011)が示す補完性原理 (the principle of subsidiarity) に着目した地域的なツーリズムに関わるガバナンス、特にRTOs (regional tourism organisations)のガバナンスといった地域的視点に基づくツーリズム推進、それを担う主体、重視すべき機能に関わる論点、また、松原(2010)が地域経済に関して示す主体間関係のありように注目した「システムとしての地域」の競争力の重要性といった地域振興のための方策、対象となる地域のとらえ方に関わる論点を視野に入れる必要がある。

【文献】

「美し国おこし・三重」実行委員会(2015a):『「美し国おこ

し・三重」報告書』(<http://www.pref.mie.lg.jp/UMASHI/HP/iinkai/houkoku.pdf>, 2015年10月15日閲覧)。

- 「美し国おこし・三重」実行委員会(2015b):『「美し国おこし・三重」パートナーグループ図鑑』。
- 松原宏(2010):広域的地域産業振興策による地域活性化戦略、(所収 大西隆編著『〈東大まちづくり大学院シリーズ〉広域計画と地域の持続可能性』学芸出版社:73-91)。
- 三重県農工商部観光局観光・交流室(2012):『三重県観光振興基本計画』(<http://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/201203044921.pdf>, 2015年10月15日閲覧)。
- 森信之(2004):地域発展のための地域的条件-ツーリズムと地域経済に基づく論点-,『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報)3:13-27。
- 森信之(2005):地域変化と計画システムの再構築-地域経済構造とツーリズムを中心とする考察-,『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報)4:33-50。
- 森信之(2006):地域振興の構造-空間とツーリズムに基づく視点-,『観光研究論集』(大阪観光大学観光学研究所年報)5:113-126。
- 森信之(2008):地域振興のメカニズムと計画、『大阪観光大学紀要』8:47-53。
- 森信之(2009):地域振興におけるツーリズム推進の空間特性、『大阪観光大学紀要』9:33-39。
- 森信之(2010):地域振興とツーリズムに関わる計画推進、『大阪観光大学紀要』10:167-178。
- 森信之(2011):環境保全とツーリズム推進-地域的視点を中心に-,『大阪観光大学紀要』11:93-100。
- 森信之(2012):地域振興と地域的關係-ツーリズム推進を中心とする考察-,『大阪観光大学紀要』12:87-94。
- 森信之(2013):地域振興のための政策推進とツーリズム、『大阪観光大学紀要』13:101-108。
- 森信之(2014):環境保全と地域振興-ツーリズムに関わる方策に着目して-,『大阪観光大学紀要』14:91-100。
- 森信之(2015):地域振興におけるツーリズム推進のための方策-地域経済に関わる論点-,『大阪観光大学紀要』15:63-70。
- Carson, D. A., Carson, D. B. and Hodge, H. (2014): "Understanding local innovation systems in peripheral tourism destinations", *Tourism Geographies*, 16: 457-473.
- Halkier, H. (2014): "Innovation and destination governance in Denmark: tourism, policy networks and spatial development", *European Planning Studies*, 22: 1659-1670. Reprinted in Halkier, H., Kozak, M. and Svensson, B. eds. *Innovation and tourism destination development*, 2015, Routledge: 113-124.
- Spyriadis, T., Fletcher, J. and Fyall, A. (2013): "Destination management organisational structures", In Costa, C., Panyik, E. and Buhalis, D. eds. *Trends in*

European tourism planning and organisation, Channel View Publications : 77-91.

Zahra, A. L. (2011) : "Rethinking regional tourism gov-

ernance : the principle of subsidiarity", *Journal of Sustainable Tourism*, 19 : 535-552.